（別紙２）

審査の結果の要旨

氏名　鈴木　英明

本論文は、インド洋西海域という場において、人の移動と商品流通を通じて形成される人々の自意識や結合のあり方が、18 世紀後半以後の欧米諸国のこの広大な空間への本格的な進出によってどのように変化したのかを論じたスケールの大きな労作である。

問題関心と使用資料を説明した序論に続く「第１部　19 世紀のインド洋西海域世界」では、東アフリカからアラビア半島、ペルシア湾岸を経てインド亜大陸西岸に至るインド洋西海域の地理と生態の条件が解説され、そこで活動する人々の生活がこれらに規制されながらも互いに密接に結びつき、モンスーンという共通の気象現象によって一定のリズムに従って展開していたことが明らかにされる。これは従来からある程度論じられてきた点だが、本論文の独自性は、塩・塩干し魚、マングローブ、穀物など具体的なモノの動きとそれらがインド洋西海域に居住する人々の生活に与えた影響を具体的に解明した点、東アフリカの港町における外来商人集団の活動を通じて多様な人々による交流の実態を詳細かつ説得的に論じた点にある。

「第２部　奴隷交易に携わる人々の変容」では、インド洋西海域で奴隷交易に携わっていた人々が、イギリスによる奴隷交易廃絶活動の展開をどのように受け止め、これにどのように抵抗しようとしたか、また、その抵抗が結果としてこの海域に生きる人々の生活をどのように変えていったのかが論じられる。著者が欧米各地やインド洋沿岸諸国の文書館などで収集した大量の未公刊文書が読解、分析され、その結果が整理されて提示されるため、論証は十分な説得力を持っている。この海域には奴隷交易に特化した「奴隷商人」は存在せず、奴隷は一般的な商人の扱う多様な商品の一つにすぎなかったこと、奴隷をも扱う商人たちが、欧米の持ち込んだ政治的なルールを逆利用することによって、従来からの交易活動を一定程度維持するのに成功したこと、それにも関わらず、最終的には彼らの行動を縛る法の体系が彼らの活動する場から遠く隔たったヨーロッパで決定され、彼らが公的に奴隷を交易する道が閉ざされたことなど、本論文が明らかにした多くの興味深い論点は、新しい世界史を構想する上で示唆に富んでいる。

本論文によって、19 世紀のインド洋西海域で交易を行う人々の活動や交流の実態が相当程度明らかになった点は大いに評価できる。また、欧米諸国における価値観の変容が、この海域における奴隷交易体制に与えた影響を具体的に提示した点も本論文の功績である。外国語転写の表記ミス、地図やグラフの不完全さ、それに論旨の一部にやや飛躍が見られる点など修正すべき個所がないわけではないが、これらは論文の全体としての価値を大きく損なうものではない。よって、審査委員会は、本論文を博士（文学）の学位を与えるに十分な内容を備えているものと判断した。